

小學校
國民讀本

安積五郎編

卷之二

K120.8
49
2

K120.8

49

2

安積五郎編

小學國民讀本二

版權所有

集英堂藏版

小學國民讀本卷之二

目次

第一課	にほん
第二課	いざすゝめ
第三課	うめのはな
第四課	たこあげ
第五課	はねつき
第六課	をりづる
第七課	にはとり
第八課	にんぎやう
第九課	ねふとてふ
第十課	ふうせんたま

小學國民讀本

卷之二目次

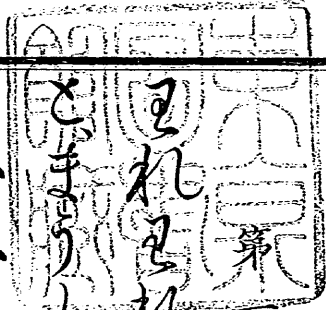
集英堂藏版

- 第十一課
- 第十二課
- 第十三課
- 第十四課
- 第十五課
- 第十六課
- 第十七課
- 第十八課
- 第十九課
- 第二十課
- 第二十一課
- 第二十二課
- 第二十三課
- 第二十四課

じようききや
 つきやま
 がくかう
 さんせつ
 アサオキ
 山と川
 口と目
 舟あそび
 考へモノ
 猿
 犬
 月ノ大小
 くふうの蛙
 くふうの鳥

小學校 國民讀本卷之二

安積五郎 編

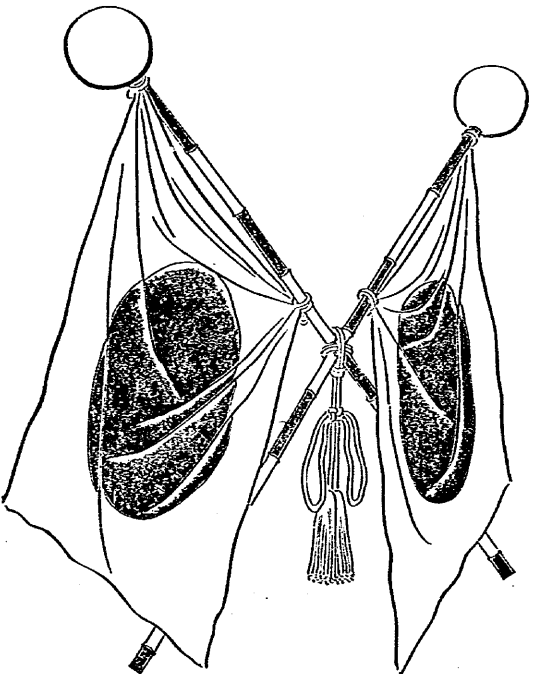


課 にほん

王れ王れのすんでゐる人にはにほん
 とまうります。 にほんとはひのもと
 といふことで、ひは、せかいをてらすも
 のであります。 うーて、こがくにの、は
 たぶるーには、うのひのまるをもちひま

小學校 國民讀本 卷之二
 安積五郎 編

す。なんごりうつぱはなはたぶるーではあ
 りませぬか。
 なんごよいん
 にのなでいあ
 りませぬか。
 ろれゆゑとな
 さんいひがせ
 かいをてらすとほりにこのはたをわ



ちて、くにのひかりをせかいにかゝや
 かさねばなりませぬ。

い、だ、い、い、

第二課 いざすゝめ

ひかりかゝやいひのそはた、
 えにのひかりももろともに、
 さゝげすゝめいざすゝめ。
 こゝろすだなるたけ乃うま、

たけきあゝろも、もろともに、

むちうちすゝめ、いざすゝめ。

あゝろすどなる、たけ乃つゝ、

たけきこゝろも、もろともに、

になひてすゝめ、いざすゝめ。

と、そ、乃、あゝ

第三課 うめのはな

うめのをなが、さきまゝ、たごらん、なさ

い、ゆきのやうに、まろゝて、きれいであ

ります。うめのを

なは、おほくのを

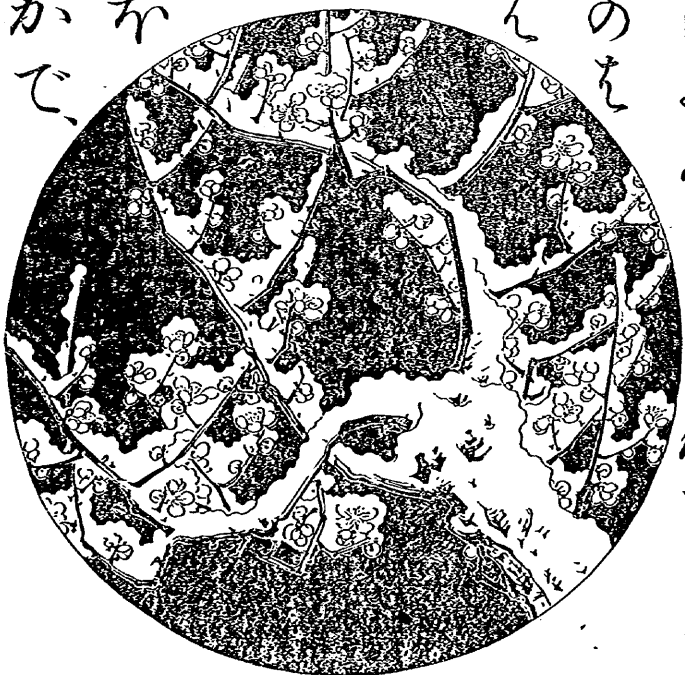
なのなかで、い

ちばんよいに

かひがいたゝ

ます。また、おか

このを、なのなかで、



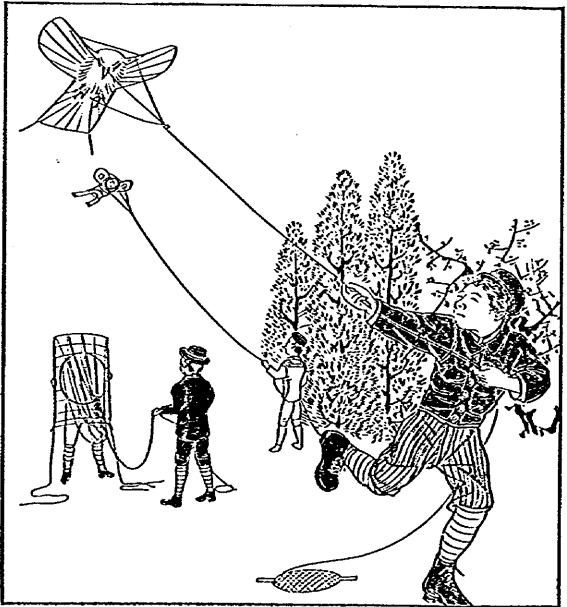
いちばんさきにしきします。このはな
は、志もやゆき乃なかでもさむさにま
けずによくさきます。

も、お、か、やう、

第四課 たこあげ

ふけよ、ふけよ、はるかぜふけよ。また
くーは、ここあげが、すきであります、と
くーのここは、とびだすであります

から、とびのやうによくあがります。
阿がれ、阿がれ、くもるに、阿がれ。うな
りも、ついてるま
す、ちやうど、いま、
うかりは、ドめま
した、よくきこは
ませう。うなれ
うなれ、ねを、よく



うなれ。ふかふかはりがつようござ
います。あふももちてぶらんあさい。
ふ、あ、ふ、ちやう、

第五課 はねつき

あたくりのをねをござらんあさい。た
いさうよくはづみます。よくはづむ
はねは、へこなもれでもよくつくこと
ができます。あなこのはごいたれあ

はなにであきます
か。こきは、うづか
ござんの急だと、お
つかさんが、まう
ました。さあ、とき
から、ついてありびませ
う。あたくりから、た
めます、一、二、三、四、五、六、七、八



九の十とさあ、こんどは、阿なこのをんであ
りますから、これはねをおとさぬやう
に、よく、おうけなさい。

此、と、せ、さう、

第六課　をりづる

ごうごう、またくーに、つるををりてくだ
さいませ。つるををりますに、いなが
いのみが、いますか、志のくあかみ、が、

ひりますか。志かくなのみが、ひりま
す。阿のひのが、ひり
ますか、あをひのが、ひ
りますか。つるの、志
のひとりで、あります
あら、しるひのみが、と
ひとおもひます。あ
なたい、つるををること



とをどろんどですか、つるををるに、
 すこーてまかあります。木のをり
 たつるは、またに、おりておるとあるで
 い、ありませぬ、うらをとんであるかた
 ちで、あります。おのつるの、せあ、に
 ほろい、いとをつけて、つるーますと、ち
 やうど、ちゆうを、とんであるやうに、み
 えます。

あ、い、ま、ちゆう、

第七課 にはとり

ここよ、にはとり、たぐさん、
 あうんで、あまは、あれ、ごら
 んな、さ、い、た、やと
 り、あ、を、み、つ、け
 て、も、よ、こ、よ、や、り
 ま、した。も、よ、こ



へ、ひよひよとなひて、うれをふべてゐ
 まは。むよこのうちはをんどりも、め
 んどりも、よく志れませぬ。志るゝお
 ほきくあると、をんどりい、ときをつく
 りまは、ろして、をんどりにはおほきな
 とさるや、ながひをが、ありまは、めん
 どののはうよは、うれをありませぬ。
 よ、は、む、ほう、

第八課 にんぎやう



ふたりのをんなの
 こが、にんぎやうを
 もちて、あえんでゐ
 ます。むとりのを
 んなのこは、そのよ
 んぎやうよ、うつく
 ーひ、きものを、きせ

ま—た。いまひとりのおはつゝ忍の
 うへよ、ちいさな、びやうぶをたてま—
 た。おれは、そのにんぎやうをすまら
 せる、とおろであります。

ち、そ、ぎやう、ひやう、

第九課 ねことてふ

ぼたんも、ちやうやくも、よくごきま—
 た。いまは、なんどおつおろであります。

せう。うつく
 しいてふが、ごん
 できて、いま、ぼた
 んのをおよ、とまりま—た。
 おかの—たよ、ちやう
 ど、ねこが、おて、そのてふを、と
 らう、と、いたします。ちやう—
 てふ、い、よく、と、びます、おら、ねこ、い、お、



かゝ、それをとることゝ、できませぬ。

え、志やく、ぐあ、てふ、

第十課 ふうせんだま

何なたい、そのふうせんだまを、ひつお
かひなさま、ひまーたる。まれば、せうと
ん志や乃、おまつまのときよ、のひまー
た。たこい、かぜのなひと、何のりませ
ぬが、このふうせんだま、かぜのな

てえ、ひとりでよ、とく

何がります。うれ

ゆゑ、いとをつけて

もち

て、ませぬと、ちき

うへへ、あゝ、さして志

まひます。おれ、なごのひいとをつけて

て、何げたなら、さぞおもーろのらうと

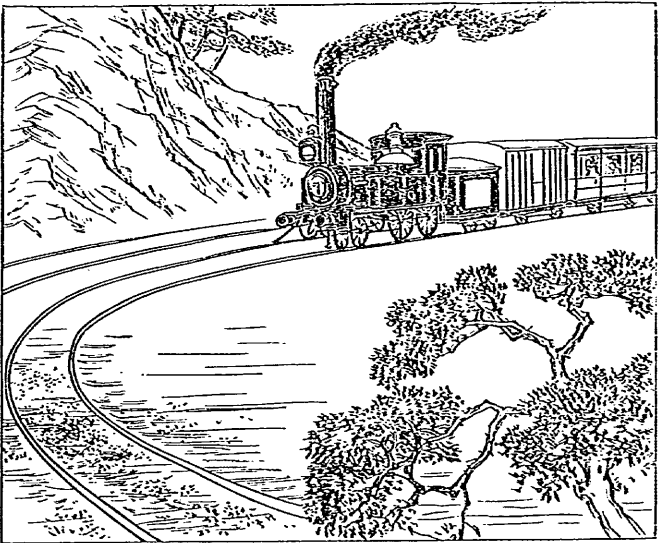


おもひまを。

を、ふう、せう、あーや、

第十一課 志ようき志や

ああたは志ようき志やよおのりなさい
いましたことあごさいまをの。あた
ふーい志ようき志やに乃りますと志
志ゆうまごのらそとををてあます。
そのときいちのくにあるきやでん



くやうよまを。

んばーらなごひみ
あいろいでうーあ
へはーるやうよみ
えますがとかくよ
あるやまやをやー
などはあたくーと
一志よよまへへゆ

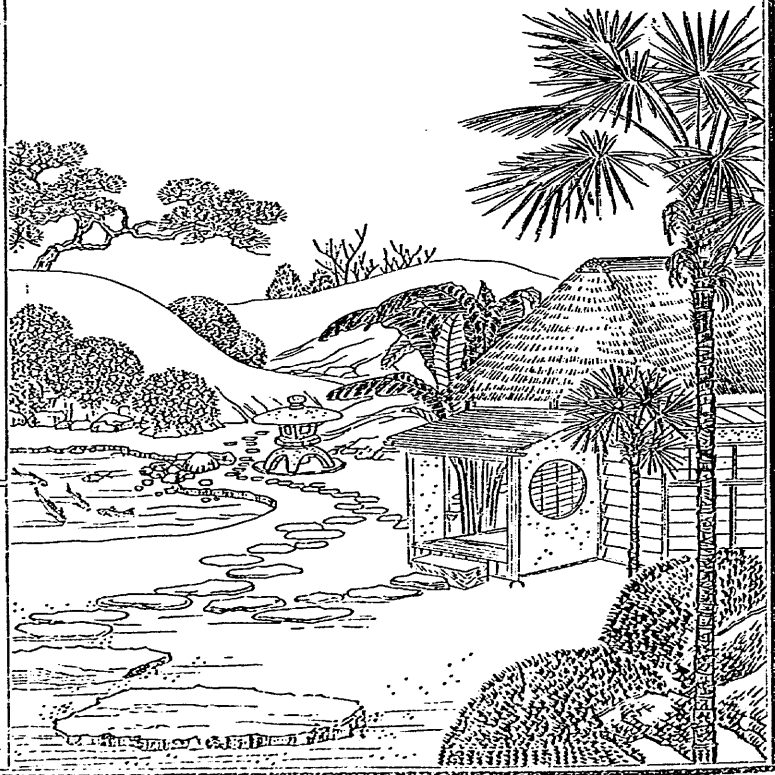
え、 およう、 おゆる、 およ、

第十二課 つきやま

こ乃、いへのにはよ、きまひな、つきやま
が、あります。 やまのうへよ、おつや
つつど、ぐらゑて、何りまゝて、いへのま
はりよ、おゆるや、をせうぐらゑて、あ
ります。 この、とびいゝをふんでゆき
ますと、あの、いゝど、うろ、うの、そば、ゆ

おれ、ます、そ
こよ、い、い、け
も、何り、まゝ
て、お、ひ、や、ふ
な、お、お、よ、い
で、お、ま、え、

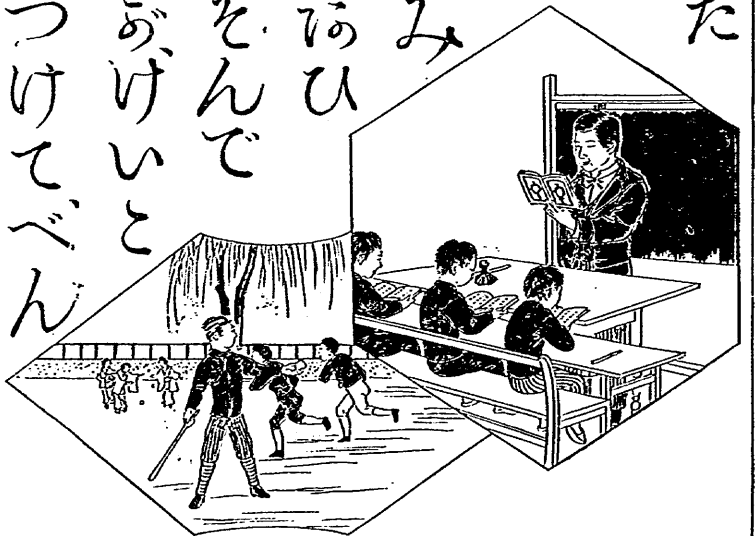
ま、 おゆる、
ごう、 うろ、



第十三課 がくかう

いま、ひとりのせんせいがけうちやう
 で、せむとにかんををへておまは。
 あれは、なんのかんで、あります。あ
 れは、こくみんとくかんであります。
 あのかんのけいこが、すむとつぎは、は
 んちゆつのけいこが、まよります。
 そのあひだに、すこし、やすまが、あいま

す。やすまのあひだ
 は、せむとが、みない
 うほばに、でて、きま
 まよ、あそびまは。み
 あはんも、やすまのあひ
 だい、どのやうに、あそんで
 も、ようございませう。けいと
 のうちには、よく、きをつけて、べん



きやうせねばなりませぬ。
あ、かう、けう、い、う、

第十四課 志んせつ

およーといふをんなの子が、ありまゝ
て、ともだちと、えんがえで、たてたまを
とりて、まゝした。うのとき、そとをさ
ほりかゝりた、ひとりのと、よりの、
い、よ、つまづきて、ころびました。お

よーい、うれをみて、す
ぐよ、と、よりのを、たを
けた、こ、きもの、につ
いた、つちあどを、たど
して、やりました。と
よりの、い、大きに、よる
こんで、まこと、に、あ、り、が、た、う、お、ま、へ、さ
ん、い、このやうに、人に、しんせつな、こ



ろをもちておひでなさるからのちよ
にきつとよい人におなりなさるであ
らうとまうりまうた。

子、小、大、人、

第十五課 アサオキ

月ハマダ、ノヨリテ井マスガ、カラスガ
ナイテ、モウ、ヨガアケマシタ。サア、日
ノアガラナイサキニ、オキマゼウ。ワ



タクシハ、ニハヲ、ハキ
マスカラ、アタタハ、戸
ヲアケテクダサイ。
ア、エコニ、アリノア
ナガアル、ゴランナサ
イ、エシナ、小サナナリ
デ、大キナムシヲ、アナ
ノ中へ、ヒキイレテ井

マス、コノムシハ、ナニ、スルノテ、アリ
 マセウ。エレハ、オホカタ、子ドモノア
 サメシニ、タベサセルノテ、アリマセウ。
 アレ、オツカサンモ、ワタクシドモノ、
 アサメシノ、シタクヲシテ、オイデナサ
 イマス。

月、日、戸、中、

第十六課 山ト川

エレハ、山ト川ト
 ノ、ケシキデアリ
 マス。山ニハ、ツ
 ツジノハナヤ、フ
 デノハナガ、ウツ
 クシク、サイテ井
 マス。川バタ
 ニハ、イトノヤ、



ウナ、ヤナギが、シダレテ、水ニ、ウツリテ
井マス。水ハイハノアヒダヲ、ナガレ
テ、川ノソコモ、ミエルヤウデ、アリマス。
アナタハ、山ニアソブコトガ、スキデ
アリマスカ、マタハ、川ニアソブコトガ、
スキデアリマスカ。山デハ、ハナヲ、ヲ
リタリ、キノミヲトリタリ、アタリノ、ケ
シキヲ、ナガメタリスルコトガ、デキマ

ス。川デハ、石ヲヒロウタリ、シヅミヲ
トリタリ、ウヲヲ、ツリタリスルコトガ、
デキマス。

山、川、水、石

第十七課 口と目

あるとき、口が、目よむかひて、わたく
を、只、一つでありませぬ、いふことと、く
ふこととの、二つのやぐを、いたしまし

のよ、あふたは、二つでありあふら、たゞ
見るば、ありの、一つの、や、くよりほ、あ、な
さらぬのは、さ、て、さ、て、は、た、ら、き、の、な、い
こと、で、い、何、り、ま、せ、ぬ、あ、と、い、ひ、て、ま、ら
ひ、ま、し、た。目、は、と、れ、を、き、い、て、人、は、見
る、こ、と、を、た、い、せ、つ、で、あ、り、ま、は、ら、ら、ま、
さ、く、い、二、つ、で、も、な、あ、あ、ま、は、り、あ
ね、ま、は、ら。何、な、た、い、一、つ、で、も、と、か、い、い

い、す、ぎ、や、く、い、す、ぎ、を、ま、て、人、が、こ、ま、り
ま、は、ら、ら、れ、が、二、つ、も、あ、り、ま、し、た、ら、
人、が、な、か、こ、ま、り、ま、せ、う、と、い、ひ、ま、し、た。

口、目、只、見、

第十八課 舟あそび

け、ふ、い、そ、ん、き、が、よ、い、あ、ら、む、あ、う、の、い
け、へ、ゆ、き、て、舟、を、う、か、し、て、何、そ、び、ま、せ
う。あ、た、く、し、も、こ、の、あ、ひ、だ、つ、く、り、た、

小舟がありますから、どちらがよ、くは
いるか、くらべてみま
せう。 あなたの舟に
は、ほばーらが、三ぼん
ありて、日の丸のはた
が、立ちてをりますか、
わたくーのもおなド
やうで、あります。 さ



あ二人で、一志よ、ようかーませう、あれ、
舟い、のぜをうけて、はーり出ーまーた、
あらあら、どちらが、かつ、まけるか、た
もーろい、たもーろい。

舟、丸、立、出、

第十九課 考へモノ

私ハ、人ニ、ユハガラレマスケレドモ、人
ハ、ケツシテ、私ヲ、ソマツニハ、アツカヒ

マセヌ。私ハ、ツネニ、木ヤ、クサノ、ヨク、
カワイタノヲ、タベテ、イキテ、井マス。
シカシ、ソレヲ、タベルニハ、カゼノ、アル
トコロデ、ナケレバ、ナリマセヌ。カゼ
サヘアレバ、口ガ、ナクテモ、大テイノモ
ノハ、タバテシマヒマス。只、水バカリハ、
大キラセテ、アリマス。ミナサン、私ハ、
ナニデアリマセウカ、アテ、ゴランナ

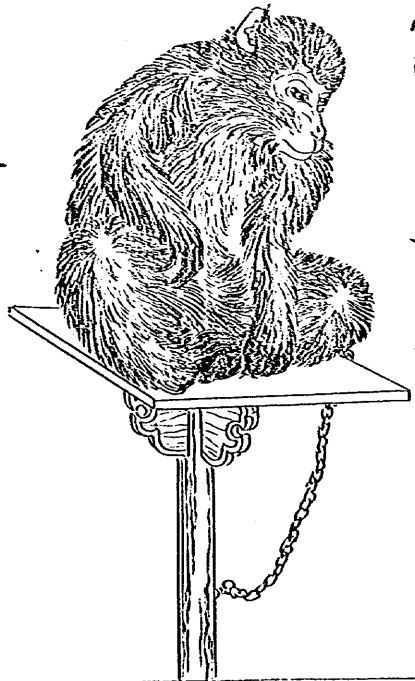
サ、私ノ、ナハ、火トイフモジラ、カキマ
ス。

考、私、木、火、

第二十課 猿

猿は、よく、人のまねを志ます。うれゆ
急、つねよ、人まねば、ありする人を、猿の
やうだと、まうします。又、猿と、犬とを、
一志よに、おきますと、いつも、いさゝのひ

をしまし。それゆゑ互に、いさゝのひを
 ありせる人を、
 猿と犬とのや
 うだと、まう
 まさ。すべて、
 いさゝのひをしたり、人まねをしたりを
 る、よくないことでありまし。



猿、又、犬、五、

第二十二課 犬

犬ハ、ヨク人ニナレテ、マコトニ、カハユ
 イ、ケモノデアリマス。カウテ井ル人
 ガ、呼ブト、チキ、出テキテ、尾ヲウゴカシ
 タリ、トビツイタリシテ、ヨロコビマス。
 又、一度デモ、モノヲモラウタ人ヲ、ヨ
 ク、オボエテ井テ、イツ、アウテモ、タイサ
 ウ、ヨロコビマス。犬ハ、チクシヤウテ、

アリマスケレド、一度ウケタ恩ハイツ
 マデモ、忘レヌモノデアリマス。
 カヤウニ、犬デサヘ、
 ウケタ恩ハ、忘レマセ
 ヌカラ、人ハ、ナホ
 ナリマセヌ。
 モシ、恩ヲウケテ、忘レテ



シマウト、犬ニモ、オトリタ人ダト、イヤ
 シマレマスゾ。

呼、尾、度、恩、忘、

第二十二課 月ノ大小

今月ハ、ナン月デアリマスカ。 二月デア
 アリマス。 今日ハ、イク日デアリマス
 カ。 十一日デアリマス。 ソレデハ、ケ
 ウハ、キゲンセツテ、メデタイ日デアリ

マス。イツタイ、月ノ數ハ一年ノ中ニ、
 イクツアリマスカ。十二アリマス。
 一月ハ、イクニチテ、アリマスカ。ソレ
 ハ、月ニヨリテ、チガヒマシテ、日數ノ多
 イ月ハ、三十一日テ、少イ月ハ、三十日テ
 アリマスガ、今月バカリハ、二十八日テ
 アリマス。日數ノ多イ月ハ、一月、三月、
 五月、七月、八月、十月、十二月テ、アリマシ

テ、コレヲ、大ノ月トイヒマス。又、日數
 ノ少イ月ハ、二月、四月、六月、九月、十一月
 テ、コレヲ、小ノ月トイヒマス。

今、數、年、多、少、

第二十三課 くふうの蛙

一人の男の子が、私におもいもの
 を、くふう志ましたら、をやくきて、ご
 らんなさい、といひて、どもだちを呼び

まいた。ともだちはい
 そいで、ゆきて見ますと、
 かまで、だんだん蛙がた
 いみのうへをばうてお
 ました。ともだちはい
 ん、おどろいて、見ておま
 す中に、大八といふ子ども
 は、すぐに、ぎしよりて、その



蛙を、口で、ふきまいた。さういたいま
 はと、その蛙は、ひつくりかへりて、その
 下から、こがね虫が、一ぴき出ました。
 ともだちは、これを見て、みな手をうりち
 て、おらひきました。

蛙、男、下、虫、手、

第二十四課 くふうの鳥

つぎの日、大八は、友だちをあつめて、こ

れを「ごらん、なさい」といひて、ふふや、め
だふふどをかうて、たぐ
をけを見せました。友
だちハ、大ぜいで、そのを
けを見まはすと、木と羽と
で、つくりた鳥が、水の上
を、あちこちと、たよぎま
はりて、居りました。友



だちは、みふ、ふーぎのことに、思うて居
ますと、大ハは、おらひながら、みなさん、
此の志かけを、志りたいとお思ひなさ
るから、ドぶんで、よくお考へなさい」と
いひました。これハ、大ハが、きのふの
蛙から、思ひついて、くふうーるので、あ
りまして、鳥のあーに、いとをつけて、ふ
なのひれに、ゆひつけるのであります。

校用國民讀本卷之二

馬、友、羽、居、思、

集英堂發行

K 120.8

小學校國民讀本卷之二終

明治二十五年二月一日印刷
明治二十五年二月三日出版
版權所有

定價五錢五厘

編者

福島縣平民
安積五郎
東京市本郷區駒込西片町十番地

發行兼印刷者

東京府平民
小林八郎
東京市日本橋區通旅籠町十一番地

發行所

集英堂本店
東京市日本橋區通旅籠町十一番地

賣捌所

各府縣下書肆

